

日本熱物性学会 2010年第2回役員会報告(HP版)

日 時：平成22年4月24日(土) 役員会13:00~17:00

場 所：慶應義塾大学三田キャンパス 研究棟A会議室

主な議題：

高橋会長より御挨拶があった。長坂事務局担当より、配布物の確認が行われた。役員会名簿の修正があった。

(1) 前回議事録確認

田口評議員より前回議事録の確認があり、問題なく了承された。

(2) 覚書の一部改定について

長坂事務局担当より、覚書の一部改定の説明があった。「5) 特別表彰者の推薦 貢献賞、功労賞、名誉員とは別に、学会の運営や活動に貢献があった方を会長、副会長、表彰委員長協議の下に適宜表彰することができる。」を追記したとのこと。また、第30回(米沢)の論文数等を追記した。「保管数」という項目については、保管することが義務にならないような文言に変更することになった。また、長坂事務局担当より、論文集DVDの販売価格を記載したい旨の提案があり、事務局で決定した販売価格を記載することに決定した。覚書の一部改定について、問題なく了承され、一部改定の日付を付記し改定された。

高橋会長より、日本熱物性学会賞に関する内規の改訂について説明があった。

(3) 第31回日本熱物性シンポジウム報告

高田第31回日本熱物性シンポジウム実行委員長より、第31回日本熱物性シンポジウム第2回会告について説明があった。共催・協賛依頼は事務局が担当することになった。OS2は小原先生が出席できないために、東工大の花村先生、九大の河野先生がオーガナイザーで「エネルギー変換に関わる熱物性・界面特性」というOSを予定している旨の説明があった。また、OS5のオーガナイザーに九州産業大学の赤坂亮先生に打診しているとのこと。機器・カタログ展示に関しては、カタログ展示は行わないので、「機器展示は行わない」という文章に修正することになった。新規性の喪失に関しては、公開日を2010年11月2日(火)に設定したとのこと。

学生ベストプレゼンテーション賞に関して、国立研究所等の若手研究者も対象にできるような年齢制限にはどうか、という意見が出された。若手全員を定義すると対象者が多くなり実行委員の負担が大きくなるという意見もあり、従来通り学生を対象とすることになった。また、学生プレゼンテーション賞対象資格について協議し、学会への入会が必要条件であることが決定した。

(4) 第32回日本熱物性シンポジウム準備状況

長坂第32回日本熱物性シンポジウム実行委員長より、第32回日本熱物性シンポジウム準備状況について説明があった。シンポジウム会期は2011年11月21日～23日に慶應義塾大学日吉キャンパスで開催する予定である旨の報告があった。500人収容可能な教室を総会用に予約してあるとのこと。また、懇親会は隣接のレストランを予定している。燃焼シンポジウムと会期がバッティングした旨の報告があり、燃焼シンポジウムとのジョイントセッション等も検討しているとのこと。

(5) 30周年記念事業について

牧野30周年記念事業実行委員会委員長より、30周年記念事業について説明があった。学会ホームページリニューアルについてはほぼ完了しているとのこと。30周年「熱物性」記念号に関しては、目次を決定し執筆依頼を行った旨の報告があった。記念号に掲載できる写真や名誉員の方々のお写真をいただきたいとのお願いがあった。祝賀会は、11月16日19時～21時に天神のレストランで開催する予定である。記念シンポジウムについては、第31回日本熱物性シンポジウム総会の前に開催することになった。記念シンポジウム・祝賀会の参加登録や参加費の徴収はシンポジウム参加登録と併せて行うことになった。記念シンポジウム参加登録番号を入金の際に記名してもらうことで対応することになった。また、名誉員の方々には事務局からお知らせすることになった。

(6) 各種委員会について

編集委員会について

東編集委員長より、「熱物性」Vol. 24, No. 2(2010)の説明があった。投稿論文数が依然少ない状況のため、投稿をお願いしたいとのこと。敷島製パンの山田先生に特集を企画いただいている。「さーもふいじしすと」や「めるていんぐぼいんと」の投稿もお願いしたい旨の説明があった。

表彰委員会について

牧野表彰委員長より、熱物性学会賞推薦状況について説明があった。是非推薦をお願いしたいとのこと。推薦に際しては、選考対象となる資料を複数添付して提出していただきたい旨のお願いがあった。

広報委員会について

宮崎広報委員長より、広報委員会活動報告があった。メーリングリスト配信、研究会開催の

連絡や共催・協賛の情報更新等を行ったとのこと。トップページのコラムについて、3研究室に執筆依頼を行い、今年度は3ヶ月ごとに更新を行うとの報告があった。

研究分科会について

低温環境における熱物性の基礎と応用

田中オーガナイザーより、活動報告があった。3年目を迎え参加者の定着も見られるとのこと。工場見学、海外での研究会の実施やOS企画、出版物の発行等を検討している旨の説明があった。

マイクロ・ナノスケールの熱物性とシステムデザイン

宮崎オーガナイザーより、活動報告があった。研究分科会を1月22日に開催し2名の講師の方にご講演いただいたとのこと。シンポジウムではOSを企画する旨の説明があった。

熱物性データベースについて

馬場熱物性情報担当理事より、熱物性データベースについて説明があった。データベースには1300件程度の熱物性値等を収録しており、10000アクセス/月あるとのこと。アクセス権限を細かく設定することによって、会員サービスを拡大しアクセス増大を図りたい旨の説明があった。例えば熱物性ハンドブック購入者に対してデータの閲覧範囲を拡大する等の対応が考えられる。今後、執行部と事務局が養賢堂と交渉することになった。

(7) 共催・協賛について

長坂事務局担当より、共催・協賛の報告があった。既に承諾し、HPへの掲載を行ったとのこと。

(8) 会員異動について

長坂事務局担当より、会員異動の報告があった。会員増強をお願いしたいとのこと。

以上